平成３１年度　　教科指導計画書

学　　年	専門課程3年
科　　目	臨床医学各論
科目担当者	関矢　稔
単位数・年間時間数	3単位・90時間
使用教科書	盲学校教科書編纂委員会編　生活と疾病Ⅲ臨床医学各論第3版
使用参考書	
評価方法	前期・後期の各学期ごとに中間・期末試験を行い、その平均（小数点以下切捨て）をもって学期末の評価とします。学年末には前期・後期の評価を平均し（小数点以下切捨て）、この学年末評価が60点以上であることを単位修得の要件とします。
科目の概要と学習の目的	疾患ごとにその原因、症状、発症機序、検査、治療等を系統的に学習する科目です。 疾病の多くは生体のホメオスタシスの変調に起因しています。 本科目では各疾患について学習を進めながら生体の内部環境を正常に保つ仕組みについて復習していき、単純暗記ではなく原因から症状を推察できる能力を身に着けることを目指します。
授業の展開	授業は教科書に沿って進めていきます。基本的に資料等は配布しません。国家試験の出題頻度や引用された用語については前時のまとめ、本時のまとめの中で強調していきますので各自でノートを作成してください。
自己学習の進め方	疾患に現れる症状の離開には解剖学・生理学の知識が必須となります。これら科目の復習を日常的に行っておいてください。 毎週末には当該週の授業進度に合わせた練習問題をメールで配信しますので必ず返信してください。不正解の問題には解説を付けて返信します。

授業内容（予定）	合計 96時間
前期＜18週＞	前期計　54
第6章血液・造血器疾患	10
第7章腎・泌尿器疾患	10
第8章内分泌疾患	10
第9章男性生殖器疾患	3
第10章代謝・栄養疾患	6
第11章膠原病・膠原病類似疾患	8
第12章一般外科	5
中間試験	
中間試験の講評	1
期末試験	
期末試験の講評	1
後期＜14週＞	後期計　42
第13章麻酔科とペインクリニック	5
第14章皮膚科疾患	5
第15章眼科疾患	5
第16章耳鼻咽喉科疾患	5
第17章婦人科疾患	5
第18章精神科疾患	4
第19章小児科疾患	4
第20章感染症	7
中間試験	
中間試験の講評	1
期末試験	
期末試験の講評	1

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成３１年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程3年
科　　目	リハビリテーション医学
科目担当者	小原恵子
単位数・年間時間数	2単位・60時間
使用教科書	日本理療科教員連盟教科書委員会編「生活と疾病ＩＡ・ＩＢ」
使用参考書	
評価方法	前期・後期それぞれに中間試験と期末試験を行います。 その平均（小数点以下切捨て）を学期末評価とします。 学年末評価は前期・後期の学期末評価の平均（小数点以下切捨て）とします。 この学年末評価が60点以上であることが単位修得の要件です。
科目の概要と学習の目的	超高齢化社会となった現在、リハビリテーション医学の対象は脳血管障害、脊髄損傷、脳性麻痺、切断、呼吸器、骨関節、神経などの疾患や身体機能障害の予防・回復なども含み扱う領域が広いです。 聞きなれない医学用語も多く出てきますが、医療従事者として必要なリハビリテーション医学の基礎的知識の修得を目指します。
授業の展開	教科書に沿って進め、あはき師国家試験出題傾向に沿った授業を行います。前期は、リハビリテーションの概要からリハビリテーション治療まで、後期は基礎運動学と疾患別リハビリテーションを学習します。
自己学習の進め方	授業中に提示された要点について理解を深める為、復習をしましょう。単元ごとに過去の国家試験問題を配布します。理解できないところがあれば、担当教官にご質問下さい。

授業内容（予定）	合計 64時間
前期 ＜ 18 週 ＞	前期計　36
1　リハビリテーションの概要	5
2　障害の評価	10
3　リハビリテーション治療	9
4　基礎運動学	8
5　疾患別リハビリテーション	
(1)　脳血管障害	4
中間試験（筆記試験）	
期末試験（筆記試験）	
後期 ＜ 14 週 ＞	後期計　28
5　疾患別リハビリテーション	
(1)　脳血管障害（つづき）	4
(2)　脊髄損傷	4
(3)　脳性麻痺	4
(4)　切断	4
(5)　呼吸器疾患	5
(6)　骨・関節疾患	3
(7)　神経疾患	4
病院見学実習	
中間評価（筆記試験）	
期末試験（筆記試験）	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成３１年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程3年
科　　目	医療概論
科　目　担　当　者	阿部　博明
単位数・年間時間数	1単位・30時間
使　用　教　科　書	医療と社会　改訂第7版
使　用　参　考　書	配布資料
評　価　方　法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第３条に基づく試験(評価)を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が６０点以上であることが単位修得要件の１つです。
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な医療制度及び医療従事者の倫理の基礎的知識について学習し、これを治療院経営及び施術に応用する能力と態度を習得することを目的とします。
授　業　の　展　開	授業は教科書を中心に進めます。授業の冒頭では、前回の授業の要点を復習します。授業の終了前には、本日の授業の要点をまとめます。国家試験の過去問を使い、随時、問題演習を行います。
自己学習の進め方	まとめ資料を配布します。この資料はあくまでもポイントを記載したものですので、教科書の関連する単元を良く読み、前後の文章などを確認しながら、復習に活用してください。

授　業　内　容　（　予　定　）	合計 32時間
前　期　＜　18　週　＞	前期計　18
ガイダンス	1
１．現代の医学と医療	10
２．社会福祉制度	7
中間試験	
期末試験	
後　期　＜　14　週　＞	後期計　14
３．医療倫理	10
４．医学史	1
５．総復習	3
中間試験	
期末試験	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成３１年度　教科指導計画書

学　　年	専門課3年
科　　目	関係法規
科　目　担　当　者	阿部　博明
単位数・年間時間数	1単位・30時間
使　用　教　科　書	医療と社会　改訂第7版
使　用　参　考　書	配布資料
評　価　方　法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第３条に基づく試験(評価)を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が６０点以上であることが単位修得要件の１つです。
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な、あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律及び、医療関係法規の基礎的知識について学習し、施術者として法に則した業務を行う能力と態度を習得することを目標とします。
授　業　の　展　開	授業は教科書を中心に進めます。授業の冒頭では、前回の授業の要点を復習します。授業の終了前には、本日の授業の要点をまとめます。国家試験の過去問を使い、随時、問題演習を行います。
自己学習の進め方	まとめ資料を配布します。この資料はあくまでもポイントを記載したものですので、教科書の関連する単元を良く読み、前後の文章などを確認しながら、復習に活用してください。

授　業　内　容　（　予　定　）	合計 32時間
前　期　＜　18　週　＞	前期計　18
１．導入	
（１）法の体系とあはき法の構成	
（２）受験手続きから免許までの流れ	2
２．あはき法制の沿革	2
３．あはき法	
（１）免許	2
（２）試験に関すること	1
（３）欠格事由	2
（４）免許に関すること	3
（５）業務に関すること	3
（６）施術所等に関すること	3
中間試験	
期末試験	
後　期　＜　14　週　＞	後期計　14
３．あはき法（続き）	
（６）施術所等に関すること（続き）	1
（７）広告の制限	2
（８）罰則	2
（９）医業類似行為	1
４．関係法規	
（１）医療法と医師法	1
（２）保健師助産師看護師法	2
（３）理学療法士及び作業療法士法	1
（４）その他の医療関係法規	1
５．福祉制度と医療保険制度	3
中間試験	
期末試験	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成３１年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程3年
科　　目	あん摩マッサージ指圧理論
科目担当者	山本　浩二
単位数・年間時間数	2単位・60時間
使用教科書	基礎保健理療Ⅱ（保健理療理論）改訂版
使用参考書	
評価方法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第３条に基づく試験(評価)を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が６０点以上であることが単位修得要件の１つです。
科目の概要と学習の目的	あん摩マッサージ指圧師として必要なあん摩マッサージ指圧の基礎及び臨床応用について学び、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。
授業の展開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。教科書の内容に沿って進め、既習科目と関連付けられるように説明をします。
自己学習の進め方	基礎となる解剖学、生理学、あん摩マッサージ試圧実技の復習を行い、わからないところを自ら見つけ、質問できるように努めて下さい。

授業内容（予定）	合計 64時間
前期＜18週＞	前期計　36
1.あん摩マッサージ指圧の意義	2
2.あん摩	10
3.マッサージ	8
4.試圧	4
5.その他の関連する治療法	2
6.あん摩マッサージ指圧の臨床応用	4
7.リスク管理	4
復習、その他	2
中間試験	
期末試験	
後期＜14週＞	後期計　28
8.あん摩マッサージ指圧の基礎理論	12
9.あん摩マッサージ指圧の治効理論	4
10.関連学説	4
復習、その他	8
中間試験	
期末試験	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度　　**教科指導計画書**

学　　年	専門課程3年
科　　目	鍼灸理論
科　目　担　当　者	関矢　稔
単位数・年間時間数	2単位・60時間
使　用　教　科　書	基礎理療学Ⅲ（理療理論）改訂第10版　オリエンス研究会編
使　用　参　考　書	はりきゅう理論　東洋療法学校協会編
評　価　方　法	前期・後期の各学期ごとに中間・期末試験を行い、その平均（小数点以下切捨て）をもって学期末の評価とします。学年末には前期・後期の評価を平均し（小数点以下切捨て）、この学年末評価が60点以上であることを単位修得の要件とします。
科目の概要と学習の目的	鍼灸医学の最新の基礎・臨床研究の成果に触れ、鍼灸の作用機序について理解を深めます。また学習した内容を施術に応用し、科学的根拠に基づく医療サービスを提供する能力と態度の獲得を目指します。
授　業　の　展　開	教科書に沿って授業を進めます。授業の冒頭では前時の復習、終了前には本時の復習を行って記憶すべき重要なポイントを強調します。他の科目と関連する項目については発問を交えながらその関連性を強調していきます。
自己学習の進め方	授業に先立ち教科書の下読みを行い、疑問点を抽出しておいてください。毎週末には宿題として、その週に進行した範囲の練習問題を提示しますので、翌週までに必ず提出してください。

授　業　内　容　（　予　定　）	合計 64時間
前　期　＜　18　週　＞	前期計　36
ガイダンス説明	1
２　鍼の基礎知識	3
用具、古代九鍼	
３　刺鍼の方式と術式	4
刺鍼の基本操作、刺鍼中の手技	
４　特殊鍼法	2
５　灸の基礎知識	2
灸の材料、線香	
６　灸法の種類	3
７　鍼灸の臨床応用	3
刺激量、感受性、適応症、禁忌	
８　リスク管理	8
過誤と副作用、感染症対策	
９　鍼灸治効の基礎	8
末梢における鍼灸刺激の受容と伝導	
感覚の中枢内伝導路	
１０　中間試験	
１１　中間試験の講評	1
１２　期末試験	
１３　期末試験の講評	1

後　期　＜　14　週　＞	後期計　28
１４　鍼灸治効の基礎	12
鍼灸刺激と反射	
鍼鎮痛	
刺激と反応	
１５　鍼灸施術の一般治効理論	8
自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響	
生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響	
１６　関連学説	6
１７　中間試験	
１８　中間試験の講評	1
１９　期末試験	
２０　期末試験の講評	1

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成３１年度　　**教科指導計画書**

学　　年	専門課程3年
科　　目	東洋医学臨床論
科目担当者	阿部　博明
単位数・年間時間数	4単位・120時間
使用教科書	臨床理療学（理療臨床論）オリエンス研究会著 盲学校理療科用図書編纂委員会編
使用参考書	配布資料及び東洋医学臨床論（はりきゅう編及びあマ指編） 東洋療法学校協会編
評価方法	前期・後期とも、中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第３条に基づく試験(評価)を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。
科目の概要と学習の目的	臨床で遭遇する代表的な疾患に対して、症状および所見から病態を把握し、疾患の鑑別と効果的な治療方法について学習する授業です。
授業の展開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業の終了時には本日の授業の要点をまとめます。授業は配布資料を中心に進め、既習内容については国家試験の過去問を使って知識の確認を行います。臨床診察学の授業と連携しながら、必要に応じて検査法の実技も行います。
自己学習の進め方	この科目で習得する知識・技術は、すでに履修済みの解剖学、臨床医学総論、経絡経穴概論、東洋医学概論、理療臨床医学各論の知識を必要としますので、各科目の復習をしておいてください。また、利用者の皆さんには本授業の復習による知識の定着とともに、臨床実習などでの活用を通して、治療技術の向上を期待します。

授業内容（予定）	合計 128時間
前期 ＜ 18 週 ＞	前期計　72
１．オリエンテーション	1
２．治療論（総論、治療原則）	10
３．症候別治療（肩こり、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛、腰下肢痛、膝痛、運動麻痺、頭痛、顔面痛、顔面麻痺、歯痛、眼精疲労、鼻閉、脱毛症、めまい、耳鳴り、咳嗽、喘息、胸痛、腹痛）	44
４．スポーツ医学と理療施術	12
５．国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む）	5
中間試験	
期末試験	
後期 ＜ 14 週 ＞	後期計　56
６．症候別治療（悪心、便通異常、月経異常、排尿障害、インポテンツ、高血圧症、低血圧症、食欲不振、肥満、発熱、のぼせと冷え、不眠、疲労と倦怠、発疹）	42
７．高齢者に対する理療施術	6
８．国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の分析を含む）	8
中間試験	
期末試験	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成３１年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程3年
科　　目	地域理療と理療経営
科目担当者	佐藤 浩輔
単位数・年間時間数	2単位・60時間
使用教科書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 「地域理療と理療経営 社会鍼灸あん摩学序説」
使用参考書	特になし
評価方法	前期、後期ともに、中間期に口頭試験、期末に筆記試験を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得の要件です。
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な地域社会における理療の役割、医療・福祉のあり方、及び理療の経営に必要な知識について学習し、施術者並びに経営者としての能力と態度を修得する授業です。
授業の展開	前期は少子高齢化社会が直面する社会保障制度の現状を通して、あはき業との関係性を学習していきます。後期は地域リハビリテーションにおける包括ケアシステムの中で、あはき師がどのように貢献するのかを、皆様の経験を通じて共に考える授業とします。
自己学習の進め方	前期試験では社会保障全般、後期試験では独立開業における立地、自由診療と保険診療、従業員雇用について出題します。配布資料を精読し、自分なりに理解を深めるためのノートを作成して下さい。

授業内容（予定）	合計 64時間
前期 ＜ 18 週 ＞	前期計　36
1　地域社会と理療	10
2　少子高齢化社会の現状と課題	9
3　社会保障制度の体系	8
4　医療業務と社会保険制度	9
中間試験（口頭試験）	
期末試験（筆記試験）	
後期 ＜ 14 週 ＞	後期計　28
5　理療経営の基礎	10
6　理療経営の展開	8
7　機能訓練型デイサービスの起業	2
8　理療と就労	8
中間試験（口頭試験）	
期末試験（筆記試験）	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成３１年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程3年
科　　目	あん摩マッサージ指圧臨床実習
科目担当者	佐藤　浩輔
単位数・年間時間数	2単位・90時間
使用教科書	－
使用参考書	－
評価方法	別途配布する『臨床実習評価ガイドライン』に基づき各学期末に評価します。
科目の概要と学習の目的	チーム医療を実践できる医療関係者として必要な基本的心構えと態度（責任感、守秘義務、知識・技術の鍛練、礼儀作法（言葉づかい、身だしなみ、接遇態度など））を理解し、行動できる。教員の直接指導のもと、治療計画に応じた施術及び評価が適切に実施できる。あマ指臨床の現場における衛生管理や、施術上の過誤・有害事象の防止及び生じた際の適切な対処について理解・実践ができる。総合的に治療院等の運営ができるようになることを目標とする授業です。
授業の展開	別途配布する『臨床実習マニュアル』、『カルテマニュアル』に従い臨床実習を行います。
自己学習の進め方	実習者は実習の当日までに担当する患者様のカルテを確認し、担当教官と相談しながら治療計画を立て、施術に必要な予習をしておいてください。

授業内容（予定）	合計 96時間
前期＜18週＞	前期計　54
オリエンテーション・模擬臨床	3
患者への施術	51
後期＜14週＞	後期計　42
患者への施術	42

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成３１年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程3年
科　　目	はりきゅう臨床実習Ⅰ・Ⅱ
科目担当者	阿部博明・加藤麦・佐藤浩輔・関矢稔
単位数・年間時間数	4単位・180時間
使用教科書	－
使用参考書	－
評価方法	別途配布する『臨床実習評価ガイドライン』に基づき、2名の実習担当教官が学期末に評価を行い、その平均点（小数点以下切捨て）をもって期末評価とします。
科目の概要と学習の目的	チーム医療を実践できる医療関係者として必要な基本的心構えと態度（責任感、守秘義務、知識・技術の鍛練、礼儀作法（言葉づかい、身だしなみ、接遇態度など））を理解し、行動できる。教員の直接指導のもと、治療計画に応じた施術及び評価が適切に実施できる。鍼灸臨床の現場における衛生管理や、施術上の過誤・有害事象の防止及び生じた際の適切な対処について理解・実践ができる。総合的に治療院等の運営ができるようになることを目標とする授業です。
授業の展開	別途配布する『臨床実習マニュアル』、『カルテマニュアル』に従い臨床実習を行います。
自己学習の進め方	実習者は実習の当日までに担当する患者様のカルテを確認し、担当教官と相談しながら治療計画を立て、施術に必要な予習をしておいてください。

授業内容（予定）	合計 192時間
前期＜18週＞	前期計　108
オリエンテーション	9
模擬臨床	6
患者への施術	93
後期＜14週＞	後期計　84
患者への施術	84

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成３１年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程3年
科　　目	臨床取穴学
科　目　担　当　者	小原恵子
単位数・年間時間数	1単位・30時間
使　用　教　科　書	東洋療法学校協会編「新版 経絡経穴概論（拡大版第2版）
使　用　参　考　書	
評　価　方　法	前期・後期それぞれに中間試験と期末試験を行います。実技試験を実施し、実技試験80%、通常の授業態度20%で評価します。その成績を当該学期の評価点とします。学年末評価は前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が６０点以上であることが単位修得要件の１つです。
科目の概要と学習の目的	臨床の現場において、施術者として必要な取穴法、選穴法及び配穴法について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養うことを目的とします。
授　業　の　展　開	各経絡の流注を意識し、経穴、胸腹部の募穴、肩背腰部等の取穴を通し切経法を学習し取穴感覚を養う。 正経を基礎として、愁訴に応じた様々な選穴法、配穴法を学習します。
自己学習の進め方	反復練習により「身体で覚える」ことが必要となります。そのため、授業時間外に少しでも多く反復練習を行いましょう。

授　業　内　容　（　予　定　）	合計 32時間
前　期　＜　18　週　＞	前期計　18
1　取穴法の基礎	8
取穴、経穴とは	
2　上下肢三陰三陽、腹部への取穴	8
経脈の流注	
切経（ツボの確認）	
取穴姿勢	
要穴	
3　反復練習と復習	2
中間試験	
期末試験	
後　期　＜　14　週　＞	後期計　14
1　肩背部、腰部、頭部への取穴	8
経脈の流注	
切経（ツボの確認）	
取穴姿勢	
要穴	
2　選穴法の基礎	2
3　配穴法の基礎	2
4　反復練習と復習	2
中間試験	
期末試験	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成３１年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程3年
科　　目	臨床診察学
科目担当者	阿部　博明
単位数・年間時間数	1単位・30時間
使用教科書	なし（資料を配布します）
使用参考書	なし
評価方法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第３条に基づく試験(評価)を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が６０点以上であることが単位修得要件の１つです。
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な問診（医療面接）と診察法の実際について学び、施術を適切かつ効果的に行う能力を習得することを目的とします。
授業の展開	前期では、臨床実習で必要となる問診（医療面接）と、筋・骨格系症状の診察を中心に学習します。後期では、筋・骨格系症状と自律神経症状の診察法を学習します。
自己学習の進め方	この科目で習得する知識・技術は、すでに履修済みの解剖学、臨床医学総論、理療臨床医学各論の知識を必要としますので、各科目の復習をしておいてください。徒手検査等の技術は、「体の動きのイメージ」と「身体で覚えること（反復練習）」が重要です。実習室で練習したい場合には、担当教官が立ち会いますので、遠慮なく声をかけてください。

授業内容（予定）	合計 32時間
前期 ＜ 18 週 ＞	前期計　18
診察の概要	3
筋・骨格系症状の診察	
１．肩こりの診察	4
２．頚肩腕痛の診察	5
３．腰下肢痛の診察	6
中間試験	
期末試験	
後期 ＜ 14 週 ＞	後期計　14
筋・骨格系症状の診察つづき	
４．肩関節痛の診察	5
５．膝関節痛の診察	5
自律神経症状の診察	4
中間試験	
期末試験	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成３１年度　教科指導計画書

学　　年	専門課程3年
科　　目	補習解剖学
科　目　担　当　者	古賀英樹
単位数・年間時間数	0単位（補習）・30時間
使　用　教　科　書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編　人体の構造と機能　解剖学　第2版
使　用　参　考　書	
評　価　方　法	学年末評価は、前期と後期の期末試験による評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この科目は補習として扱われるため、卒業のための単位修得要件には含まれません。
科目の概要と学習の目的	国家試験に向けて1年次で既習した解剖学の総復習をする授業です。
授　業　の　展　開	国家試験の出題頻度の高い項目を中心に取り上げ、必要に応じて模型観察をし、他の科目と関連付け臨床に繋がるように進めます。
自己学習の進め方	国家試験の過去問題に解答し、弱点を克服しましょう。また、わからないところを見つけて、積極的に質問をして下さい。

授　業　内　容　（　予　定　）	合計 32時間
前　期　＜　18　週　＞	前期計　18
骨格系（関節含む）	4
筋系	5
神経系	4
循環器系	4
期末試験	1
後　期　＜　14　週　＞	後期計　14
呼吸器系	1
消化器系	3
泌尿器系	2
生殖器系	2
内分泌器系	1
感覚器系	3
その他	1
期末試験	1

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度　　**教科指導計画書**

学　　年	専門課程3年
科　　目	補習生理学
科　目　担　当　者	関矢　稔
単位数・年間時間数	0単位（補習）・30時間
使　用　教　科　書	理教連教科書編纂委員会編　人体の構造と機能（生理学）第3版
使　用　参　考　書	－
評　価　方　法	前期、後期ともに中間期と期末に試験(評価)を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この科目は補習授業として扱われるため、卒業のための単位修得要件には含まれません。
科目の概要と学習の目的	２学年までの生理学では各器官系ごとに内部環境を一定に保つ仕組みがあり、その失調が疾病につながることを学習してきました。本補習では、臨床医学各論の授業の進行に合わせて、各疾患に現れる症状に関連する生理学の単元や項目を復習しながらその発生機序を学習し、生体の機能について理解を深めることを目指していきます。
授　業　の　展　開	発問を中心に知識の定着度を確認していきます。解答が分からない場合は生理学の教科書を参照して極力自力で解答できるようにしてください。
自己学習の進め方	臨床医学各論の各章に関連する生理学の単弦を復習していきます。生理学の教科書の参照する部分は事前にお知らせしますので、授業に先立ち教科書の下読みをして、理解が足りない部分を整理しておき、授業の中で質問できるようにしておいてください。

授　業　内　容　（　予　定　）	合計 32時間
前　期　＜　18　週　＞	前期計　18
ガイダンス説明	1
第2章 循環（第6章 血液・造血器疾患）	5
第7章 排泄　（第7章 腎・脾尿器疾患）	5
第8章 内分泌（第8章 内分泌疾患）	7
中間試験	
期末試験	
後　期　＜　14　週　＞	後期計　14
第9章 生殖・成長と老化（第9章 男性生殖器疾患）	2
第4章 消化と吸収（第10章 代謝・栄養疾患）	5
第5章 代謝　（第10章 代謝・栄養疾患）	3
第14章 生体の防御機構　（第11章 膠原病・膠原病類似疾患）	4
中間試験	
期末試験	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。